



代々木歯科コーナー

連載



認知症と食事の関係2

その59 歯科医師 上田英範

食べる前の準備

認知症が進行してしまつと食事の際に、口へ運ぶ量、口へ運ぶ速さ、噛む力の調整、食べ物の硬さの判断、味、温度、匂いといった感覚といつた「何をどのように食べるか」を判断する能力が低下してしまいます。

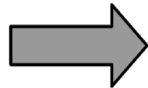
そのための対策として、まず食事をとる為の準備から始めていきます。認知症の方にとって、いきなり食事を配膳してもそれを「食べ物」と認識できていない場合があります。そのため、配膳よりも先に食事を促すように声掛けや、食器の準備などを行うことで食事をを行うという事が認知出来やすくなります。

食器は弁当式がよい
主菜、副菜など多彩な献立は健康に良いですが、お皿や小鉢が増えるという事は、認知症の方にとって目に見えた情報を理解するのが困難でパニックを起してしまうことがあります。なので、お弁当の様に

食事は一つのお皿に盛り付ける



たくさんのお皿に盛り付けている



お弁当形式でコンパクトにする

一つのお皿にまとめて盛り付けを行うことで、目で見て分かりやすくなくなり、食事がスムーズになれるようになることもあります。

食事環境も大切

また、食事場所の環境も影響します。例えばテレビがついていたり、周りに会話している人がいたりすると、周囲が気

最後に、認知症の進行とともに飲み込みの能力も低下してきます。食前体操を行ったり、定期的なお口の管理を受けていただく事も大切になります。

相談室の事例から

患者サポートセンター

社会福祉士 豊田恵太

こんにちは。代々木病院の患者サポートセンターで介護や福祉の相談業務を担当している医療ソーシャルワーカーの豊田と申します。最近の事例で印象に残っている事例を紹介いたします。



三宅島

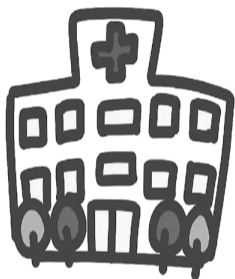
診療所はリハビリが行えない
都内救急病院は入院対象外

療養生活援助
リハビリ目的で当院入院へ

退院後は神津島の施設へ



直接入院
依頼



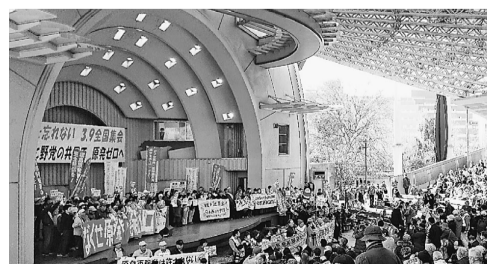
院では、救急対象の患者でない入院の受け入れをしてもらえない」とのことでした。また診療所ではリハビリも行えず、入所できる施設もなく、代々木病院に入院の相談があり受け入れをしました。

この方の事例に限らず、最近では単身生活で病気を患ったことにより、今までのように動くことが困難になり、リハビリを希望して入院されてくる患者様は多くいらっしゃいます。私たち医療ソーシャルワーカーは地域で生活をするための支援になれるよう相談支援を行い、微力ではありますが患者様のお役に立てることができるよう日々努めています。

代々木病院の社保・平和活動



3月6日昼休み、千駄ヶ谷駅前9条改憲NOと核兵器廃絶の署名・宣伝に取り組みました。



3月9日に上野公園野外ステージで開催された「福島を忘れない」全国集会へ参加。福島からの参加者も多く、ステージいっぱい。



サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)

お酒を飲む時にウコンドリンク。こんな習慣が広まっています。年末年始には、うんざりするほどTVコマースシャルを見たりしてはいませんか。ウコンを売りにしたドリンクが発売されたのは2004年、現在では関連商品の販売額は300億円台となっています。二日酔い防止の健康食品は、ウコンに追加して肝臓エキスやオルニチンといった「肝臓に良い」成分を加え、製品を増やしています。

健康食品として有名なウコンも、全国的に知られるようになったのは1990年代後半、利用実績は意外に短いものです。当初、ウコン末を飲むという利用法でしたが、ドリンクにより若者が飲むようになり

(47) 肝臓を働かせ二日酔いを防ぐウコン

売上げは3倍に増加しました。

今回、「いつでも元気 MIN-I-REN」3月号で解説しましたが、ウコンの情報は不十分なまま拡販が続いており不安になりました。メーカーは「二日酔い改善作用」「肝障害抑制作用」などをうたっていますが、動物実験レベルです。ヒトでの有効性を実証する研究は増えておらず、2000年代初めと変わらない状態です。